

東日本大震災子ども・若者支援センター開所式 一大震災後の子ども・若者に必要な支援について考える

東日本大震災から7年以上が経過した。この間、子ども・若者は、それぞれにこの震災の体験を背負い、身を削るような学びを続けている。その中には、専門的な支援に繋がった子ども・若者もいれば、支援が必要にもかかわらず、専門機関に繋がっていない子ども・若者もいる。また、彼らの中には、被災したふるさとの復興や自分たちの体験を次の世代に繋げたいと願い、活動の場を求めている若者もいる。こうした子ども・若者たちが震災を抱えながら成長し、大人になっていくためには、継続的・総合的に支援を続ける体制を緊急に構築することが求められる。

阪神淡路大震災では、20年間の支援の必要性が語られているが、さらに広域で厳しい被害を受けた東日本大震災では、それ以上の期間の支援が求められている。だが、残念ながらこれまでの子ども・若者支援に見る限り、総合的・長期的な支援体制が構築されているとはいえない。

本事業は、それらの子ども・若者の成長と発達を、被災体験を抱えながら成長する子どもの視点から、医療、心理、教育、福祉などの分野にわたって総合的・長期的に支援するために、第1期として「東日本大震災子ども・若者20年プロジェクト」と位置づけ、2030年まで様々な事業を行うことを目的として立ち上げることにしたものである。

本シンポジウムは、その記念事業として、震災から継続して子どもたちや、支援者の抱える心理的な課題に寄り添ってこられた本間先生の基調報告をもとに、震災後に様々な課題を背負いながら成長してきた若者たちからの発言を受けて、今後の支援を考えたい。今回は阪神淡路大震災で被災した子どもたちからの報告も受ける。震災から年数を経ることはどのような家族の変化、暮らしの変化があるのか、またその変化は、子どもたちのキャリアの形成にどのような影響を与えるのか、市民、専門家の支援者たちと一緒にこれからの支援の在り方を考えてみたいと思う。

総合司会 遊佐美由紀 (宮城県議会)

13:00 設立宣言 足立 智昭 宮城学院女子大学 教授

13:10 基調講演 本間 博彰 元宮城県子ども総合センター所長
あさかホスピタルこどもの心診療部長

「大震災から7年、診療の場では出会った子ども・若者たち」

14:10 シンポジウム

「大震災後、子ども・若者が考える支援とは」

話題提供 兵庫県西宮市 岩手県山田町 宮城県南三陸町・石巻市
福島県南相馬市で震災を経験した子ども・若者たち

15:40 情報交換会 16:10
コーディネーター 森田明美 (東洋大学)

仙台レインボーハウス(仙台市青葉区五橋2丁目1-15)

仙台駅から

JR仙台駅西口を出て、奥州街道を南に徒歩14分

五橋駅から

仙台市営地下鉄南北線「五橋駅」北2番出口から南へ1分

資料代 500円 お申込みは不要です

※会場には駐車場がありません。

スリッパなどは用意しておりませんので、内履や厚い靴下をご用意下さい。

2018年2月10日
土曜日
13:00
~16:00

主催：東日本大震災子ども・若者支援センター

協力：宮城県議会子ども政策研究会 あしなが育英会 東洋大学人間科学総合研究所 東日本大震災子ども支援ネットワーク
NPO法人子ども福祉研究所 NPO法人子どもグリーンサポートステーション

後援：宮城県 仙台市

お問い合わせ：あしなが育英会 東北事務所 担当：菅野 E-mail：kanno.h@ashinaga.org

TEL：022-797-2418/FAX：022-281-8239